

世界気象機関（WMO）「アジアの気候 2024」について

6月23日に世界気象機関（WMO）より、アジア域における2024年の気候の特徴や異常気象とその社会経済的影響を取りまとめた報告書「アジアの気候 2024（State of the Climate in Asia 2024）」が公表されました。

世界気象機関（WMO）は、2021年から毎年、その前年を対象にアジア域における気候の特徴や異常気象とその社会経済的影響を取りまとめた報告書を作成し公表しています。本報告書の作成には、気象庁もデータ提供や執筆を通して貢献しています。このたび、6月23日に、2024年を対象とした「アジアの気候 2024（State of the Climate in Asia 2024）」が公表されました。主な内容は以下の通りです。

- 2024年のアジアにおける平均気温は、1991-2020年の平均から1.04℃高く、過去最高または2番目（データセットにより異なる）に高くなった。
- アジアは現在、世界平均のほぼ2倍の速さで温暖化しており、1991-2024年の上昇率は1961-1990年のほぼ2倍となっている。
- 大陸の太平洋側とインド洋側の海面水位上昇は世界平均を上回り、低地の沿岸地域におけるリスクが高まっている。

その他のポイントや日本に関する記述については、別紙をご覧ください。

なお、気象庁では気候変動の科学的知見に関する様々な情報を以下の「気候変動ポータル」にて発信していますので、ご覧ください。

気候変動ポータル：<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/menu/>

アジアの気候 2024 (State of the Climate in Asia 2024) の概要について

6月23日に世界気象機関(WMO)より、アジア域における前年の気候の特徴や異常気象とその社会経済的影響を取りまとめた報告書「アジアの気候 2024 (State of the Climate in Asia 2024)」が公表されました。この報告書は2021年から毎年1度、公表されています。気象庁もデータ提供や執筆を通して貢献しています。

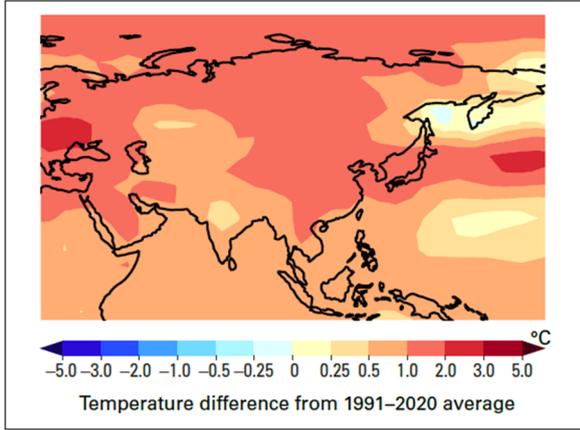
報告書リンク：<https://wmo.int/publication-series/state-of-climate-asia-2024>

概要

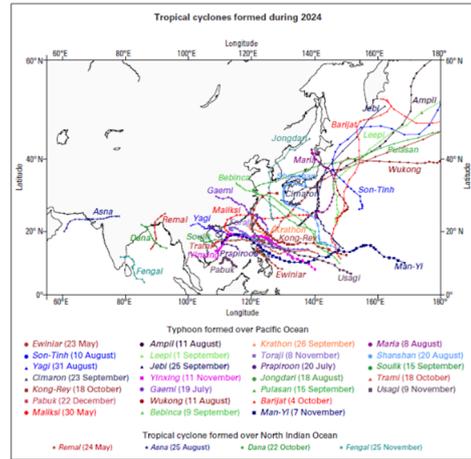
- 2024年のアジアにおける平均気温は、1991-2020年の平均から1.04℃高く、過去最高または2番目(データセットにより異なる)に高くなった。
- アジアは現在、世界平均のほぼ2倍の速さで温暖化しており、1991-2024年の上昇率は1961-1990年のほぼ2倍となっている。
- 冬の降雪量の減少と夏の極端な高温により、中央ヒマラヤ山脈と天山山脈における氷河の質量損失が加速した。
- 海面水温は記録上最も高く、アジアにおける海面水温の10年間の上昇率は、世界平均のほぼ2倍となっている。
- 大陸の太平洋側とインド洋側の海面水位上昇は世界平均を上回り、低地の沿岸地域におけるリスクが高まっている。
- 長く続く熱波がアジアの多くの地域に影響を及ぼし、海洋熱波の面積は過去最大となった。
- 2024年で最も強かった台風第11号は、ベトナム、フィリピン、ラオス、タイ、ミャンマー、中国で広範囲にわたる被害と死傷者をもたらした。
- 中央アジアにおける記録的な洪水(過去70年以上で最悪)及びアラブ首長国連邦における極端な降水(24時間で259.5mm)は、1949年に記録を開始して以降、最も深刻な降水関連事象の一つとなった。
- 9月までに、中国における干ばつは476万人に影響を及ぼすとともに、335,200ヘクタールの農作物に被害をもたらし、直接的な損失は28.9億元に達したと推定される。
- 9月後半、ネパールでは記録的な降水により深刻な洪水が発生し、少なくとも246人が死亡した。被害額は128.5億ネパール・ルピーを超えたが、協調的な予防措置は13万人以上の命を救い、健康リスクと死傷者を減らした。

日本に関する記述

- 2024年の日本の気温は、2023年に続き過去最高となった。特に、4月、7月、10月の月平均気温の記録を更新し、日本の夏の平均気温は1991~2020年の平均を1.76℃上回って2023年に並ぶ記録的な高温となった。また、秋の平均気温も過去最高となった。
- 2024年の降水について、本州南部、四国、九州、沖縄で平年を上回る降水量が観測された。
- 台風第10号により、西日本から東日本の太平洋側を中心に記録的な大雨となった。
- 日本近海が海洋熱波の影響を受け、その影響が北日本の夏の高温に寄与した可能性がある。
- 当庁が運営しているWMO温室効果ガス世界資料センター(WDGCC)の温室効果ガス濃度のグラフ、熱帯低気圧に関する地区特別気象センター(台風センター)の台風経路図が掲載されている。また、当庁の再解析データJRA-3Qが、気温の評価に使われている。



2024年の年平均気温と1991-2020
の平均気温の差



アジア域の熱帯低気圧進路図